

# さいたま市立病院脳神経内科

## 病院概要

昭和 28 年に開設され、浦和市立病院時代を経て、平成 13 年にさいたま市の合併成立に伴いさいたま市立病院と改名されています。現在、標榜診療科 30 科を数え、全診療科を網羅した総合病院となっています。病床は結核・感染・(身体合併)精神科病棟を含めて 637 床を有します。令和元年 12 月に新病院が開院し、まだまだきれいな建物で、街中から少し離れて環境も良好です。

## 脳神経内科の特徴

脳神経内科は比較的早期から独立標榜科として存在していました。現在、内科系各科を標榜科として独立するようになってきましたが、内科各科間の敷居は低く、コンサルテーションや転科などもスムーズに行われています。卒後 3 年目の内科専攻医は 2 か月程度必ず脳神経内科をローテートし、当直などの内科系のデューティーも内科系他科と同様に参加します。また、病棟 (7B) は脳神経病棟として脳神経外科と同居しており、症例の相談や緊急手術なども迅速に対応してもらっています。

病院の特徴として救急疾患が多く、脳神経内科も脳血管障害が中心で、入院患者の半数以上が急性期脳梗塞となっています(脳出血は脳外科が担当)。スタッフはわずかですが、年間の新規入院症例は 450-500 例で推移し、脳梗塞急性期患者は 300 例前後と大学病院にも引けを取らない実績を維持しています。さらに、超急性期血栓溶解療法も 365 日 24 時間対応するべく、自らに鞭を打って励んでいます。その他にも、中枢神経感染症や諸々の神経救急疾患が多数来院し、日々頭を悩ませています。

## スタッフ

部長 佐藤秀樹

科長 此枝史恵

外来等の外勤応援 慶応義塾大学神経内科医局より 2 名/週

専攻医(内科系) 年間を通して常に 2-3 名がローテート

初期研修医 年間を通して常に 1-2 名がローテート

2022.4 現在